



若者と持続可能な未来へ

ハイレベル政治フォーラム
2017
事業報告書
Japan Youth Platform for Sustainability

Foreword

今年のハイレベル政治フォーラム(High-Level Political Forum：HLPF)では、日本政府代表として岸田外務大臣から

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals：SDGs)は、2030年とその先にある未来を造る取組です。その現実には、何よりも次世代を担う子供・若者のエンパワーメントが鍵となります。

という言葉がありました。

また、HLPFの成果文章である閣僚級宣言(Ministerial Declaration：MD)のパラグラフ6には

We also commit to including children, adolescents and youth perspectives in the development and assessment of strategies and programmes designed to address their specific needs and underscore the importance of supporting young people's participation in the implementation and review of the 2030 Agenda.

とあります。

このように、国内外でSDGsの実現に際し、今まさに現在、若者の重要性がますます語られるようになっていきます。

元々、HLPFの設定が決定された2012年の国連総会決議A/RES/66/288のパラグラフ84、(h)項には、

Promote transparency and implementation by further enhancing the consultative role and participation of major groups and other relevant stakeholders at the international level in order to better make use of their expertise, while retaining the intergovernmental nature of discussions;

とあり、この「*major groups and other relevant stakeholders*」の中に「子ども・若者」が含まれます。

若者の国連参画への歴史は、1992年にブラジル、リオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国際連合会議」から始まり、その後少しずつ「若者」が国連の正式な場に加わって、持続可能な社会に向けて、若者特有のニーズを発信できるようになってきました。

そんな中、我々Japan Youth Platform for Sustainability(JYPS)は、2015年に仙台で実施された第3回国連防災世界会議の流れを汲み、2015年の冬に設立されて以来、

日本国内における SDGs 実施及び国際的な SDGs 実施に関して「日本の若者」という立場で参画を行ってきました。

そこで本報告書では、HLPF へと繋がるこれまでの JYPS のアドボカシー(政策提言)活動の一部プロセスをまとめるとともに、HLPF 期間中の国連本部現地での活動をまとめました。

ぜひ JYPS 加盟個人・団体の来年 HLPF への参加を検討している方だけでなく、これから JYPS に加盟したいと思っている方、日本の若者の持続可能な開発に関する活動に関心のある大人の方にも読んでいただきたいと思いますと考えております。

また、JYPS はこの HLPF を SDGs 達成のための、さらに広範でハイレベルなアドボカシー活動を行うための起点としたいと考えています。

最後になってしまいましたが、本派遣に関わった、国連子どもと若者メジャーグループ、SDGs 市民社会ネットワーク (SDGs Japan)、日本政府をはじめとする全ての皆様に本報告書を以て感謝の意とさせていただきたいと思いをします。

Contents

Foreword	2	アドボカシー戦略	
Executive Summary		HLPF でのアドボカシー成果と、今後重要な政策事項	28
High Level Political Forum 概要	5	日本の SDGs に対する取組	28
JYPS HLPF 派遣団 派遣概要	6	HLPF に関するアドボカシー	29
派遣団員名簿・参加報告書		HLPF 公式セッションやサイドイベントにおける発言	33
派遣団員名簿	8	NVR での成果及び評価と今後のアドボカシー	37
個人参加報告書	9	今後のアドボカシー戦略	38
HLPF×若者			
HLPF × Japan Youth Platform for Sustainability	13	キャンペーンと JYPS 広報報告	
HLPF × The United Nations Major Group for Children & Youth	14	広報戦略全体概要	41
HLPF プログラム/サイドイベント		SNS やホームページを通じた発信	42
本会議プログラム	16	他団体・組織との連携、協働	47
本会議一部詳細 ～ SDGs 実施レビュー SDG 14 ～	18	日本政府主催レセプションにおける協働	49
プレナリーセッション	20		
サイドイベント	22		
サイドイベント一部詳細 ～グローバルかつ見落としがちなモザイク画：SDGs 持続可能な実施のために地域の人口組成を知る～	24		

Executive Summary



High Level Political Forum 概要

概要

今年の7月10日から19日にかけて、アメリカ合衆国ニューヨークにある国連本部で国連ハイレベル政治フォーラム (the UN High Level Political Forum for Sustainable Development Goals : HLPF)が開催されました。

HLPF とは、2012 年の国連持続可能な開発会議（リオ+20）に基づき、2015 年の9月に国連総会において全会一致で可決された「2030 アジェンダ」及びその中に掲げられている持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals : SDGs) と呼ばれる国際目標や、仙台防災枠組み、持続可能な生産と消費に関する枠組み等の持続可能な開発に関係する国連枠組みに関して、各国の取り組み・進捗状況共有・実施の仕方を確認し加速させることを目的にした非常に重要な会議です。

今年の会議は「Eradicating poverty and promoting prosperity in a changing world 一貧困をなくし、変化していく世界の中で繁栄を促進する」と題し、17 個ある目標のうち、以下の7つの目標がレビューの対象となりました。

目標1：あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

目標2：飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

目標3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

目標5：ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

目標9：レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る

目標14：海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

目標17：持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

具体的なスケジュール

7月10日～14日のHLPF第1週目は、今年のテーマと上記7つの目標に対するテーマ別レビューが行われました。様々なサイドイベントが行われる週末を挟んで、7月17日～19日のHLPF第2週目には「自発的国別レビュー(Voluntary National Review: VNR)」が実施されました。

去年の会議では22か国参加していたのに対し、今年はその約2倍の国が立候補し、43か国がVNRの対象国となりました。ここでは各国が自国の2030アジェンダへの取り組みを他の国、国際社会、そしてステークホルダーの前で発表し、成果をチェックされます。

日本のVNRでは、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実施された未来への先駆者を目指す」というビジョンが置かれて15分のプレゼンテーションが行われました。

日程の詳細は以下のURLからダウンロード可能です。(2017年7月現在)
https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/15996Annotated_Programme_with_Speakers_HLPF_2017.pdf
https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/15986HLPF_2017_Side_Events.pdf

JYPS HLPF 派遣団 派遣概要

7月10日から7月19日までに開催されたSDGsに関するHLPFにJYPSからは11名が参加しました。

今年のHLPFでは、テーマとして掲げる「Eradicating poverty and promoting prosperity in a changing world—貧困をなくし、変化していく世界の中で繁栄を促進する」と上記7つの目標に対するテーマ別レビューと43か国が参加したVNRが行われました。その他、同イベント会場内では150のサイドイベントが同時に開催され、派遣団も積極的に参加をしました。

テーマ別レビューでは、JYPSから2名のメンバーが公式に若者として意見を述べました。VNRでは、日本が今年VNRに参加するにあたり、若者及び日本の市民社会の代表として、JYPS代表理事の小池が日本政府にSDGsの真の達成に、若者として共に協働をする意思があることを伝えました。同日に行われた、日本政府主催のレ

セッションでは、JYPS としてブースを出展し、国内外へ SDGs 国内実施における日本の若者の関心の高さ及び若者のアドボカシーの重要性を訴えました。

HLPF の 2 週間、国連で実際に行われているアドボカシーを体感し、改めて若者の声の重要性を確かめることと共に、JYPS の活動への決意も新たにすることができました。

また、JYPS では HLPF の開催に先立つ 5 月、会員団体、加盟個人を中心に派遣団の募集を行いました。派遣団への募集にあたっては下記の要件を設け、選考によって選出された該当者 3 名は NY 渡航費を負担しました。

1. SDGs に関心を持ち、若者として意見をもつこと
2. 各団体を代表すること
3. 団体派遣の準備、JYPS の今後の活動へのコミットメント

また、渡航費を自身で賄える場合には、HLPF への参加バッジのコーディネートし、計 11 名の参加を決定し、派遣団を形成しました。



派遣団員名簿

名前	Name	所属団体	役職
上田格	Itaru Ueda	Youth Beyond Disasters 日本事務局	副事務局長
遠藤あんな	Anna Gaspar Pereira Endo	Japan Youth Platform for Sustainability	政策局員
大久保勝仁	Katsuhito Okubo	American Institute of Architects	Student Board Member
唐木まりも	Marimo Karaki	Japan Women's Watch	メンバー
小池宏隆	Hiroataka Koike	UNMGCY	Global Focal Point For Habitat III
塩田貴子	Takako Shiota	ASPIRE Japan	メンバー
高橋真理奈	Marina Takahashi	Team Business for Sustainability	Coordinator of Core
外池 英彬	Hideaki Tonoike	Japan Youth Platform for Sustainability	政策局統括
松井晴香	Haruka Matsui	Japan Youth Platform for Sustainability	Ocean Working Group / Task Force
和田恵	Megumi Wada	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科	Research Assistant

(五十音順)

派遣団員参加報告¹



上田 格 / Itaru Ueda

Youth Beyond Disasters Japan Secretariat

The Deputy Secretary General

1. HLPF 参加動機

私にとって今年の HLPF は 2 度目の HLPF でした。私は昨年の HLPF2016 への参加をきっかけに、SDGs Working Group のコーディネーターという立場で JYPS 運営にも関わってきました。そして、JYPS 及び Youth Beyond Disasters として数々の経験をし、1 年活動をした後、今回の HLPF というチャンスが舞い込んできました。

従って、今年の HLPF はこれまでの 1 年間の自分の活動の成果を出す場、及び次の JYPS 運営を探し、教育し、今後の運営につなげる場であることを意識して参加をしました。

2. 参加の感想

2 度目の HLPF に参加してもなお、自分の英語力の低さを感じました。意志疎通することに問題はないものの、込み入った話になってくると、ついていくことに必死で、自分の意見が言えないことが多くありました。

¹ ここでは派遣団員による参加報告の一部を抜粋するが、全派遣団員分の個人報告書は「ハイレベル政治フォーラム 2017 個人報告集」を参照されたい。



また、JYPS 全体として考えると、昨年の HLPF に比べて今年は JYPS 派遣団の人数が多かったため、多くのセッションに出席したり、広報に力を入れることができたりと、JYPS としてできることが大幅に広がったように感じました。

3. 自分が担った活動と貢献した内容

一つは広報戦略であり、HLPF 出発以前から JYPS ウェブサイトにおけるブログ、及び SNS の活用に関して戦略を考えていました。また、実際にブログ・SNS を戦略沿って期待以上に活用した全派遣団員に感謝をしたいと考えています。

二つ目は国連子ども・若者メジャーグループ(the United Nations Major Group for Children & Youth : UNMGCY)との連携であり、12 日の HLPF 公式セッションにおいて、世界の子ども・若者を代表し、その意見を世界へと届けました。その結果、UNMGCY の中でも JYPS のプレゼンスを出せたのではないかと考えています。

4. 課題と今後の挑戦と戦略

これからの課題と挑戦として、JYPS の役職の引継ぎがあると考えています。これまで積み上げてきた人的つながりと政策提言の戦略・考え方をどれくらい現職が後継に託すことができるか、非常に難しい問題ではありますが、同時に非常に重要でもあると考えています。

私はその中で、基本的な JYPS、利害関係者に関する知識、その他基本的な知識や能力の育成の担当をしたいと考えています。さらに高度な政策提言や戦略思考に関しては代表理事・政策統括に任せたいと考えています。





松井 晴香 / Haruka Matsui

Japan Youth Platform for Sustainability

Ocean Working Group / Task Force



1. HLPF 参加動機

今回の HLPF に参加した最大の理由は、「国際政治」の現場の一つとして、この会議がどのように準備され（もちろん本会議の日程以前に準備は始まっているのですが）、動き、盛り上がり、収束していくのかといった一連の流れを自分の目で耳で肌で感じ取れたかったからに他ならないと思います。

また、大学院で国際法を専攻していることもあり、普段は出来上がった文書自体を議論するにとどまっています。その意味で、国際文書が採択及びその成果が審議される場を見たかったというのも理由に含まれます。

2. 参加の感想

想像以上に、派遣期間中は忙しくなりました。単純に仕事が多くて忙しいというよりも、常に気を抜けない時間が続いたことでそのように感じたのだと思います。

まず自分がやらなければいけないことが何なのかを明確にし、次にそれをどのように達成するのかを考え、終わった後に適宜報告や共有する、という一連の流れの中で、迅速かつ柔軟に対応することが求められていました。





その中で色々な人と出会い交流することもでき、月並みですが自分の世界が広がった感覚があります。

3. 自分が担った活動と貢献した内容

基本的には、会議の議事録の作成が私の活動の中心を占めていました。当初は JYPS の広報用の記録に従事していたのですが、そのうちに UNMGCY 側でのノートテイクに参加するようになりました。他にやりたがる人がいなかったためですが、結果的には二重でノートテイクする手間が省け、JYPS 内部でその他の活動（写真撮影や SNS 発信、渉外活動）に割ける時間が生まれたことは良かったと思います。

他の派遣団と一緒に SDGs Japan のサイドイベントのお手伝いをしたり、日本政府レセプションにおける、またはその他の場面での広報活動にも参加しました。

4. 課題と今後の挑戦と戦略

日本国内での広報と、JYPS そのものの持続性をどう確保するかが今後の一番の課題だと意識しています。

国連代表部の斎藤公使とのお食事の中で、事前に作成してきた 1 枚チラシを渡したところ、紙ではなく口頭で簡潔に説明できることのほうが重要だとの指摘を受けました。その意味で、報告書のように文書だけではなく、よりビデオや写真といった視覚や聴覚に訴えられる SNS を通じて広報に力を入れる必要性を感じました。

また、こうした点を踏まえ、レセプションでとことんアグレッシブにいくこと！これが全体的にまだまだ伸ばせる部分だと思うので、次の機会ではガンガン飛ばすことを心に誓いました。



HLPF × 若者

HLPF は「Executive Summary」で記載した通り、SDGs のフォローアップ会議として役割を定義されてきました。

そこで本章では JYPS 及び UNMGCY の概要と HLPF2017 までの両者の活動の流れをまとめます。



×



Japan Youth Platform for Sustainability(JYPS)とは国連や多国間で行われる様々な枠組みを作るための議論に向けて、日本の若者の声を政策として、日本政府や国連機関、その他市民社会に届けていくための若者による若者のための場です。

実際に JYPS はこれまで国連及び日本国内における持続可能な開発やそれに関連する会議へと参画してきました。昨年は国際面では G7 伊勢志摩サミット、HLPF2016、APEC、TICAD 等、国内面では ODA 政策協議会、日本政府による SDGs 国内実施指針・骨子の策定プロセス等への参画を行っています。

この中で今年の HLPF2017 と大きく関わっているのが日本政府による SDGs 国内実施指針・骨子の作成プロセスへの参画です。このプロセスの中で日本政府は、2016 年 5 月に内閣総理大臣を本部長とした「SDGs 推進本部」を制定、SDGs を国内の文脈で達成しようと市民社会・国連関係者を踏まえた円卓会議やパブリックコメントの実施をしてきました。そして 2016 年 12 月に SDGs 推進本部が SDGs 国内実施指針・骨子を策定しました。

JYPS はその SDGs 国内実施のプロセスに日本の市民社会である「SDGs 市民社会ネットワーク」のユース分野の世話人として関わり、日本政府が掲げた実施指針・骨子に対する政策提言を行ってきました。

それに並行し、日本政府は民間企業とのオープンイノベーションプラットフォーム SHIP(<https://www.sdgs-ship.com/>)や企業や団体等の先駆的な取り組みを表彰する「ジャパン SDGs アワード」の創設などを行ってきました。

そして HLPF2017 で SDGs の VNR を行う国として日本も手を挙げ、2017 年 7 月 17 日(月)に HLPF2017 の場で岸田外務大臣から VNR が行われました。

JYPS としてもこの HLPF2017 に日本人ユースを 10 名派遣し、日本政府の VNR 時にはこれまで SDGs 国内実施のプロセスに関わってきた市民社会の若者のプラットフォームとして、そして UNMGCY の一員として代表理事の小池宏隆が岸田外務大臣に対して意見を述べました。

加えて、HLPF 内の公式会議で、UNMGCY を代表し、世界へ向けたメッセージを発信したり、日本政府のレセプションパーティに日本のユースグループとして唯一出席・ブース出展し、国内外に日本ユースの存在や活動をアピールしたりしました。



×



国連子どもと若者メジャーグループ（UNMGCY）は、1992 年に採択されたアジェンダ 21 に基づき、持続可能な開発を進めていく上で、意思決定に関わらないといけない重要な社会の構成員であるメジャーグループと呼ばれるグループの一つです。このようなメジャーグループは、「子どもと若者」の他に 8 つあり、合計で 9 つが国連で定義されています。この UNMGCY は子どもと若者の国連の持続可能な開発に関する交渉における参画を調整し、代表制ある声を届ける、国連における公式な子どもと若者参画枠組みです。

また、UNMGCY は毎年の HLPF の開催に合わせて、本会合で扱われる分野別テーマに対する UNMGCY の政策スタンスを示す Sector Paper を作成、提言、公開をしています。

加えて Sector Paper では、Emerging Issue と呼ばれる緊急課題や、仙台防災行動枠組みや New Urban Agenda などこれまでの持続的開発枠組みプロセスからの提言を大まかにまとめています。

UNMGCY Sector Paper は下記の URL から閲覧可能です。

UNMGCY Sector Paper High Level Political Forum:

<https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/14954MGCY-HLPF2017-SectorPaper.pdf>

また、HLPF 期間中には積極的に公式/非公式関わらず多くのセッションで発言 (Intervention) をしただけでなく、自主的にサイドイベントも主催しました。



HLPF
CR-4

HLPF プログラム / サイドイベント

本会議プログラム

～10 日（1 日目）～
・ オープニング・セッション：2030 アジェンダの実施から 2 年経過した我々の状況（国連事務総長 SDGs 進捗報告書の紹介） ・ 地域とサブ地域レベルにおける実施 ・ 変化する世界における貧困の根絶と繁栄の促進：貧困と不平等の多様な側面
～11 日（2 日目）～
・ SDGs 実施レビュー SDG 1 ・ SDGs 実施レビュー SDG 2 ・ 変化する世界における貧困の根絶と繁栄の促進：マルチステークホルダーの視点
～12 日（3 日目）～
・ SDGs 実施レビュー SDG 3 ・ SDGs 実施レビュー SDG 5 ・ 変化する世界における貧困の根絶と繁栄の促進：SAMOA Pathway（第 3 回小島嶼開発途上国（SIDS）国際会議成果文書）への取り組み ・ 変化する世界における貧困の根絶と繁栄の促進：LDCs・LLDCs、MICs（中所得国）の課題
～13 日（4 日目）～
・ SDGs 実施レビュー SDG 9 ・ SDGs 実施レビュー SDG 14 ・ 目標のレビュー、課題別レビュー：SDG17 SDGs への投資・ファイナンス

・目標のレビュー、課題別レビュー：SDG17 SDGs に向けた科学・技術・イノベーションの進化

～14 日（5 日目）～

- ・SDGs の効果的な実施に向けた相乗効果を高める
- ・科学-政策インターフェイスと新たな課題
- ・第 1 週総括セッション

～15 日（6 日目）～

- ・閣僚級セグメント・オープニング（UNECOSOC 議長、1 週の主なメッセージ、PGA、事務総長キーノート）
- ・VNR：ルクセンブルク、ネパール、ブラジル
- ・VNR：モナコ、日本、インドネシア
- ・VNR：バングラデシュ、コスタリカ、ケニア、オランダ
- ・VNR：チリ・マレーシア
- ・事務総長 SDGs 報告書の紹介と UNECOSOC2017 セッションの課題、CDP 報告書の紹介、一般討論

～18 日（7 日目）～

- ・VNR：ベルギー / ベナン / ペルー
- ・VNR：グアテマラ / イタリア / ジンバブエ
- ・VNR：チェコ / ヨルダン / タイ / アルゼンチン
- ・VNR：ベラルーシ / ポルトガル / ウルグアイ
- ・VNR：スウェーデン / ナイジェリア / パナマ
- ・SDGs ビジネスフォーラム
- ・一般討論

～19 日（8 日）～

- ・ VNR：エチオピア / ホンジュラス / インド / モルディブ
- ・ VNR：アゼルバイジャン / アフガニスタン / ベリース / デンマーク
- ・ VNR：トーゴ / シプラス / イラン
- ・ VNR：ボツワナ / カタール / スロベニア / タジキスタン / エルサルバドル
- ・ Chief Sustainability Officers (CSO) & Sustainability Champions: Business and the SDGs - Moving From Aspiration to Action
- ・ 高等教育持続性イニシアティブ
- ・ 一般討論
- ・ 閣僚級宣言、HLPF ドラフト報告書の採択
- ・ HLPF の結論

本会議プログラム一部詳細

7 月 13 日（木）

SDGs 実施レビュー SDG 14

主な質問

1. ゴール 14 の実施を成功させるための要素は何か？また、何が海洋にとっての脅威となっているか？
2. 海洋に関する問題の解決策を考える際に、地域コミュニティの参画、オルタナティブな暮らし方、伝統的な知識の活用そしてステークホルダーの貢献により得られる利益を確かなものにするためにはどうしたらよいか？
3. ゴール 14 と他の多くの SDGs との関連性を踏まえて、より包括的な開発計画や開発戦略の中にゴール 14 を組み込むためには何をしたらよいか、どのような提案があるか？

4. 国連海洋会議での成果や自発約束をローカルからグローバルまで多様なレベルでのフォローアップではどのようにして進めることができるか？

導入：国連海洋会議

国連海洋会議は海洋についての諸問題を包括的に議論した初めての会議です。2017 年 6 月 5～9 日の日程でニューヨークの国連本部で開催されました。

この会議について、議長国のスウェーデンとフィジーからそれぞれコメントがありました。

スウェーデンからは、国連海洋会議は包括性において優れていたとのコメントがありました。国家や政府の代表だけでなく市民社会との対話や交流も活発に行われたようです。会議を通して、1400 の自発的約束が集まりましたが、これらが今後どのようにゴール 14 や海洋の諸問題の解決に貢献していくかがカギになります。

フィジーは小島嶼開発途上国(Small Island Developing States, SIDS)の一つにも数えられる国です。SIDS に属する国々は島国であることから独自の、しかし SIDS 間での共通の問題（たとえば主要産業である観光業による汚染問題など）を抱えています。その SIDS の一員であるフィジーにとっても、海洋会議は自国の意見や要望を表明し聞き入れてもらえる場となったそうです。

次の海洋会議は 2020 年、今度はケニアとポルトガルが議長国として開催されます。次回もより包括的で有意義な会議になることが期待されます。

議論と各国／各ステークホルダーからの意見（抜粋）

質問 1 に関し、多くの発言者が海洋会議と HLPF、さらに他の国連会議との関連性を見つけて相乗効果を高めることが肝要であると述べました。つまり、海洋会議での成果文書や自発的約束を海洋会議のみに向けたものとするのではなく、持続可能性という観点も取り入れて実施や評価にあたる姿勢が必要だということです。脅威としては、IUU（違法、無報告、無規制）漁業や、プラスチックごみの爆発的増加が数多く言及されました。世界有数の魚介類消費を誇る日本にとっても、乱獲の問題は他人事ではありません。この問題は、貿易の観点から WTO も密に関連している分野であり、単にぎ行国家だけの問題ではないのです。プラスチックごみについてはイタリア、ケニアなどが自国での規制を始めたことを述べました。統計による

と、このままではプラスチックが魚の数を上回ってしまうそうです。プラスチック規制に関しては、法的拘束力のある国際文書採択の必要性も叫ばれました。

質問2に関しては、実施を包括的にするためには、科学技術による最先端の知識はもちろん、伝統的な知識とノウハウの継承や共有を重視する声が目立ちました。これは、従来漁業やその他の海洋に関わる第1次産業に従事してきた人々の知恵や経験に価値を見出し、大切に守っていこうとする考えです。これは実はSDGsを支える **Leave No one Behind**に通じるものがあります。何故なら、伝統的に漁業従事者は先住民族や農村住民であることが多く、彼らは比較的海洋汚染を含めた環境問題からの影響を受けやすい立場に置かれているからです。この意味で、市民社会が彼らの意見を吸い上げ伝えていくことは重要になるでしょう。さらに、障害者メジャーグループからは東日本大震災時に多くの障害者の方々が死亡も含めより凄惨な経験をしたので、政府は防災という点からも障害を持つ人々の視点を取り入れるべきとの意見がありました。

3つ目の質問では、部門や国境を越えた協力体制の確立の重要性が指摘されました。部門は国内での省庁や政府間機構の連携を指します。雇用、食糧そして環境と複数分野に関連する海洋の問題は、所轄官庁を超えての協働が必須になるからです。また海洋や気候変動といった問題は性質上国境を越える問題であり各国の努力が欠かせないのはもちろんのこと、一国のみでは根本的な解決にはつながらないことは自明です。後者に関しては、パリ協定など環境に関する諸取組との融合が提案されました。

最後の質問に関しては、地域的なワークショップや会議を開催しお互いの進捗を確認しあう、国連がコーディネーターとしてモニタリングを行う（次回の海洋会議でのレビューを行う旨の提案か）等の案が進言されました。

会議を通して、海洋は世界を繋ぐ存在でありそこで起こる問題の解決には世界が一体となることの不可欠性を感じました。

プレナリーセッション

7/8 (土)	Youth Action Days
	Youth Action Days(YAD)は Restless Development とデンマーク政府代表部、そして UNMGCY のもと開催されました。YAD では HLPF に参加する

	前に「若者」の社会的集団として何の心構えをしていけば良いのか、お互い確認をとるようなイベントでした。 例えば、ユース参画のためのワークショップを行ったり、アドボカシーの仕方を細かいステップごとに説明したりという内容でした。加えて、いわゆる"ロビーイング"という非公式な場面での政策の提言をいかに効果的に行うか、など HLPF への参加をより意味のあるものにできるようなコンテンツを世界のユースたちと交流しながら進めていきました。
7/9 (日)	MGoS HLPF Preparatory Meeting このミーティングは、United Nations Department of Economic and Social Affairs(UNDESA)が主催で行われました。参加者を興味のあるテーマごとに 5 つにグループを分け、HLPF2017 でメジャーグループとその他ステークホルダー(Major Groups and other Stakeholders : MGoS)の立場から重要と思われる事項について各グループのファシリテーターや MGoS のリーダーからプレゼンテーションがありました。その後テーマごとにグループディスカッションを行いました。 「Emerging Issues」のテーマのグループディスカッションでは、既存の問題でもないし、単なる予測／予想でもないけれども、SDGs 実施において意識される課題について考える、そのコンセプト自体が非常に斬新だと感じました。議論中に指摘されたように例えば移民など数十年前から存在する事象が新たな局面を迎える、という場合の取り扱いの困難さがあります。目まぐるしく変化する国際情勢において今後議論が深められるべき分野になるはずです。 このミーティングによって、HLPF が始まる前に MGoS の中で知識の共有ができました。そもそも HLPF そのものに参加しないとわからないこともあったため、このミーティングで我々が JYPS/UNMGY として事前準備していたことがやっと一つにまとまった気がしました。
7/9 (日)	HLPF2017 Youth Blast HLPF2017 Youth Blast では、一部の国連加盟国の代表団員を囲んで討議を重ねた後に、本会議のコンテンツ及びロジスティクス面での確認をしました。 また、各国のユースと会える非常に良い機会であっただけでなく、JYPS/UNMGY として HLPF2017 が始まる前の最終確認を行いました。

サイドイベント

7 月 10 日 (月)

13:15 ~ 14:30

Making SDG 4's commitment universal, free education vital Education and Academia Stakeholder Group

教育者・アカデミアのステークホルダーによる、教育無償化のためのパネルトークの後、フロア全体で各国・各セクターの課題や取り組みを議論しました。

加えて、SDGs で掲げられている貧困の根絶、経済発展、働きがいのある労働などあらゆる目標の達成に教育が鍵であることが再認識できました。特に教育へのアクセスが妨げられている紛争や気候変動の影響を受けている地域の子ども、栄養失調の子どもが取り残されぬよう、SDGs の他の目標と連携して取り組むことの重要性が訴えられました。

現在でも数百万人の子ども・若者が基礎教育を受けられない中、政府やグローバルキャンペーン、プライベートセクターがどのように連携を強化し、無償で質の高い教育の提供ができるのが、ゴール 4 の達成に重要だと改めて考えさせられました。

2:00 ~ 3:30

The Global Invisible Mosaic: Community Mapping the SDGs for Subnational Implementation

7 月 12 日 (水)

18:15 ~ 19:30

Multi-stakeholder engagement in national reviews : a dialogue between VNR Countries and Major Groups and other Stakeholders

MGoS がいかに国家ごとの SDGs 進捗レポート作成時に参加するかについてのイベントでした。

国家の SDGs 進捗レポートとともに市民社会がそれに対する評価レポート (Shadow Report) を作っていることが多く、その評価レポートに出ているデータを

いかに国家に伝えていくか、そしていかにこのような国際会議で広めていくかが国民の意見を反映させる鍵となるということが議論されました。

また、ベルギーの国家レポートを作成した方やブラジルの市民社会として評価レポートを作成した方など、国家側と市民社会側両方の実際の意見が聞け、非常に有意義なものとなりました。

7 月 14 日 (金)

16:00～18:00

Progress of SDGs in East Asian Context: from the view of civil society in South Korea and Japan Specifically on SDGs 16 & 17

日韓の二カ国共同主催となった本イベントでは、両国における市民社会の動きに様々な面から焦点が当てられました。

開発資金の流れという観点からすると、共に援助を与えるドナー国である他、まだまだ市民社会と政府との協同を深められる余地が残る点も共通するとの指摘がありました。韓国ではプレゼンターの中にも JYPS HLPF 派遣団と年齢が近い方がいらっしゃるなど、ユースの積極性が伺えました。

特に、子供に対する暴力 (Violence Against Children) の話題が取り上げられていた事が、ユースの活躍という観点から嬉しく感じました。子どもの権利条約は広範な署名が見られる反面、条約としては牙を欠くと表現されこともあります。

政治に無関心な若者が多いといわれる日本においては、子どもの健やかな成長と適切な教育は高齢化社会という背景事情から一層重要になっていくのではと感じました。

8:15～19:30

Rural-Urban Connectivity in Integrated Regional Development

名古屋にある UN Center for Regional Development が主催したサイドイベントであり、交通網などインフラ整備による、都市と地方をいかにつなげられるのかを考えました。

SDGs 目標 9・11 かつはインクルーシブかつ安全なまちづくりを目指していますが、都市と地方では貧困格差などの課題があります。そのような課題に対し、アクセスがない地方は国の発展から見落とされることが多い中で、どのようにアクセスを届けるのか事例が紹介されました。

7 月 18 日 (月)

9:30~11:30

Cooperation between Africa and East Asia for SDGs and Agenda 2063: Lessons learned from TICAD

TICAD についての基礎知識がまったくなくても、このセッションを通じて基本的な背景や概要を知ることができました。

特に印象に残った点は 2 つあります。

一つ目は、TICAD が多国間の国際会議プロセスであるという点です。これは、他の東アジア諸国・地域が二国間で同様の会議を開いているのに対して特徴的であるとの説明がなされました。バイではなくマルチで行うことで、地域としてのアフリカ独自の課題に日本としてもアフリカ諸国としてもそうした類似の問題についてまとめて対処する意識が生まれ、それが問題解決を促進するのではないかと感じました。

二つ目は、20 年を超える TICAD の歴史の中で市民社会の役割が変化してきた点です。1993 年当初は参画を正式に認められていなかった市民社会は、2003 年以降正式に参加を認められ、その役割を拡大してきました。ただ、残る課題としてアフリカ川の市民社会に対する参画の枠組みが確立されていないことが言及されました。この課題に関して、2019 年の TICAD VII に向けて JYPS としてはユース参画の強化に注力していくべきと改めて認識しました。

サイドイベント一部詳細

7 月 10 日 (木)

The Global Invisible Mosaic: Community Mapping the SDGs for Subnational Implementation

(グローバルかつ見落としがちなモザイク画：SDGs の持続的な実施のために地域の人口組成を知る)

主催

BC Council for International Cooperation

パネリスト

Japan Youth Platform for Sustainability

japanyouthplatform@gmail.com | @JYPS2030 | facebook.com/JYPS2030

カナダ / 韓国 / インド / ネパール / パキスタン から各一名ずつ

計 5 名

概要

SDGs の実施に向けて国内で政策を推進しようとする際に、国家よりも下位の行政レベル、すなわち日本で言えば 8 つの地方や 47 の都道府県、それに無数の市区町村単位で政策を行き届かせること、またそうしたレベルからの意見を吸い上げ集約し、政策に反映させることが、スローガンである「誰一人として取り残さない」に沿った形での実施となります。

このサイドイベントでは、各パネリストがそれぞれの国における SDGs の地域課題レベルへの落とし込みや各人が深く関わるコミュニティ特有の課題について、どのように対処したか、what よりも how にこだわって説明がなされました。

議事まとめ（抜粋）

大別して、カナダが地域内部の課題、韓国が市民社会から見た国家行政の課題に焦点を当てた他は、インド・ネパール・パキスタンが 3 カ国ともジェンダーに特化した発表を行いました。

カナダはブリティッシュ・コロンビア州を例に地域レベルでの指標が重要であるにもかかわらず確立されていない点を指摘しました。カナダは移民大国であることからブリティッシュコロンビアでも一つの州の中にも複数の言語、民族あるいは文化が混在する状況下に置かれています。従って、全てを州に丸投げするのではなく、さらにその下のコミュニティレベルでの実施体制を整えることが重要になります。

これに対し、パネリストは多数のコミュニティ内における市民社会や公的機関との協働を通じ SDGs 実施の進捗を調査、報告書にまとめました。国内での実施に関係する指標とより信頼できるデータを確保する必要性のほか、コミュニティレベルでの報告書の作成がコミュニティ主導で行われていくべきことを訴えていました。

これらの議論から、他民族・多文化国家においては日本と比するとかなり異なる社会背景が存在することに改めて気づかされると同時に、まさにこうした事情がある場合に市民社会の存在意義が大きく問われることになるのだと実感しました。

一方、韓国の発表は国内における SDGs 実施の歴史に始まり、主に市民社会の観点から SDGs 推進の動きがいかに広まっていったか、問題点はどこに残っているのかを丁寧に説いていました。韓国ではブラジル・リオでの Rio+20 の直後から SDGs に関連する運動が市民社会の中で盛り上がったことを発端に、それを受けて、釜山市が韓国国内で初となる Local Ordinance 21 (LA21、地方行政レベルにおける SDGs 実施要綱) を採択、その流れが一気に他の市へも広まっていったようです。

韓国の市民社会の特徴としては環境問題への強い関心が挙げられるとのことで、活動の例としては気候変動分野や都市の開発、コミュニティの構築などが紹介されました。

このように精力的な韓国の市民社会ですが、課題はやはりいかにして行政を巻き込んでいくかにあるとの認識を持っていました。例えば市長が協力的であるかどうか、市全体に協力的な姿勢があるかどうかは重要なポイントとなります。その意味で、新たな大統領である文氏は非常に SDGs に意欲的であり、国家レベルでは期待が大きいそうです。

所感

国家と比べると地方レベルでは SDGs への興味関心が薄くなってしまう傾向を改善するために市民社会間でのネットワーク形成と能力の強化、地方政府へのアドボカシーを継続的に行っていく方針が力強く伝えられ、とても頼もしく感じました。
(松井)

Daily Schedule	First Week											Second Week	
	Mon.10	Tue.11	Wed.12	Thu.13	Fri.14	Sat.15	Sun.16	Mon.17	Tue.18	Wed.19	Thu.20		
08:00		Youth Action Today for a Healthy Tomorrow:Overcoming Hurdles to Achieve Health Equity			Tackling poverty, inequalities and socio-economic transformation: Means of Implementation and Financing for Development for the achievement of the 2030 Agenda				8:15-9:30 Youth implementing the 2030 Agenda: Operationalising Paragraph 55				
09:00	Opening Scene Setting/Introduction of SG SDG Progress Report					A4SD (Action for Sustainable Development) Workshop		Opening of HLS / Ministerial Segment (EcoSoc President / main messages from first week, PGA, SG, keynote)	VNR5 Belgium/Benin/Paraguay+QA				
09:30		SDG 1	SDG 3	SDG 9									
10:00	Implementation at the regional & sub-regional level									9:30-11:30 TICAD (SDGs Japan)			
10:30													
11:00													
11:30													
12:00													
12:30		SDG 2	SDG 5	SDG 14				VNR1 Luxembourg/Monaco/Brazil+QA	VNR6 Guatemala/Italy/Zimbabwe+QA				
13:00						MGCT MTG		VNR2 Indonesia QA Japan QA(13-13:30) Monaco QA	VNR7 Argentina QA Czech Rep QA Jordan QA Thailand QA				
13:15													
13:30													
14:00													
14:30	14-15:30 Global Inhabitable Mission: Community Mapping the SDGs for Sub-national Implementation												
14:45													
15:00													
15:30													
16:00	Thematic Review (TR) 15-18 Eradicating poverty and promoting prosperity in a changing world: Multi-stakeholder perspectives")	TR 15-18 (Eradicating poverty and promoting prosperity in a changing world: Multi-stakeholder perspectives")	TR 15-16:30 (Taking forward the SAMOA Pathway)	Review of Goals / TR 15-16:30 SDG 17(Investment in and financing for SDGs)	Science-policy interface & emerging issues			Parallel Meeting (PM) 15:30-16:30		PM 15:30-17:30			
16:30	(Addressing multi-dimensions of poverty and inequalities)	Roberto Blasillo will speak on behalf of the CS PID Group	TR 16:30-18 (How it affects countries in sp. situations: LDCs & LLDC + sp. challenges of WICs)	16:30-18 TR (Advancing science, technology and innovation for SDGs)				VNR3: Bangladesh/Rwanda/Kenya/Myanmar QA	VNR8 Belarus QA Portugal QA Uruguay QA	VNR13 Bolivia QA/El Salvador QA/Slovenia QA/Tajikistan QA			
17:00								EcoSoc 2017 session					
17:30					Wrap-up of 1st week			Intro to COP report					
18:00								VNR4 Chile QA Malaysia QA		GO			
18:15								General Debate (GD)	VNR9 Nigeria/Panama/Sweden+QA				
18:30	Sustainable Mobility for All: How Mobility Can Contribute to the Eradication of Poverty & Promotion of ProsperityGCR6				The urban lens: An accelerator of poverty eradication and prosperity interconnected approaches to address poverty, hunger, health and well-being, gender equality, resilient infrastructure and innovation					Adoption of the Ministerial Declaration & the draft report of HLPF Conclusion of HLPF			
19:00						18:30-20:00 国連政府主催レセプション							
19:30													
20:00													
20:30													
21:00													



アドボカシー戦略

HLPF での成果と今後重要な政策事項

JYPS が HLPF でアドボカシーを行ううえで、まず日本政府が SDGs についてどのような取組みを行っているかを派遣団の全員が知っている必要があったため、HLPF 前は日本政府による SDGs の取組の現状把握の勉強から始め、JYPS でどのような政策提言を行い、今後 JYPS はどうあるべきか、という点まで考えました。

日本の SDGs に対する取組

政府の体制とビジョン

日本政府は、SDGs 推進に関して、関係行政機関の相互の連携を行うため、内閣に SDGs 推進本部を設置しました。この SDGs 推進本部は SDGs 実施指針の取組状況のモニタリング、指標の策定や修正も含む実施指針の見直し（フォローアップとレビュー）を各ステークホルダーとの連携により進捗報告を行い、SDGs 実施に関する広報や普及啓発活動を行います。

日本国内における SDGs 実施指針には、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す。」というビジョンがあります。

加えて、SDGs 実施原則は、①普遍性、②包摂性、③参画型、④統合性、⑤透明性と説明責任の 5 つです。日本政府は、開発に関する国際的な取組を踏まえて、分野別開発政策（イニシアティブ）を策定するなど、戦略的に開発協力を行うことを目標としています。

ステークホルダーとの連携

日本政府は SDGs の実施、モニタリング、フォローアップ・レビューに当たっては、省庁間、自治体の壁を越え、公共セクターと民間セクターの垣根(官・民)も越えた形で、NPO・NGO、有識者、民間セクター、国際機関、各種団体、地方自治体、議員、科学者コミュニティ、協同組合等、幅広いステークホルダーとの連携を

推進しています。そのため、アジェンダの推進と実施について、関係府省庁とステークホルダーの代表で構成される SDGs 推進円卓会議を設置しました。

他には、環境省が実施しているステークホルダーズ・ミーティングや、文部科学省と環境省が事務局を務める持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development：ESD）に関するステークホルダー会合も開催されています。

そして 2016 年 12 月には、円卓会議での議論を踏まえ、SDGs 推進本部によって日本の SDGs 実施指針が制定され、2017 年の HLPF では日本政府として初めての「自発的国別レビュー(VNR)」が行われました。

フォローアップ・レビュー

日本政府は、2030 アジェンダのグローバルなフォローアップに参加することを明言しています。具体的には今年 2017 年の HLPF において自発的国別レビューに参加するだけでなく、2019 年の首脳級の HLPF に合わせてレビューを行い、その後も少なくとも 4 年ごとに国内での SDGs 実施の取組状況の確認及び実施指針の見直しを行うことを言及しています。

政府の発表によると SDGs 国内実施の最初の見直しは、次回の首脳級の HLPF を見据えた 2019 年までを目処に行い、またその後も首脳級の HLPF のサイクルに合わせて、少なくとも 4 年ごとに取組状況の確認と見直しの実施を検討しています。

そして、これらのフォローアップ・レビューにおいても、SDGs 実施指針の策定時と同様、広範なステークホルダーの参画の下に行われます。

HLPF に関するアドボカシー

SDGs 達成に貢献するためには、HLPF に参加する事だけではなく、事前の準備から重要となります。

JYPS は、HLPF 期間前にも数々の議論の場に参加しました。

SDGs 推進円卓会議

SDGs 推進円卓会議とは、行政や NGO、有識者、民間セクター、国際機関、各種団体などの幅広い分野からの関係者が出席して行われる日本の SDGs 推進のための会議であり、この 1 年間に首相官邸で 3 度開催されました。

この会合では、HLPF に向けた政府内の準備状況の説明や、市民社会による HLPF での日本の発表内容の意見が出されることもありました。市民社会の代表である SDGs Japan の各分野別担当（ユニット担当）はこの円卓会議に先立って戦略会議を持ちました。

ユースユニットのコーディネーターである JYPS も、もちろん円卓会議へのインプットに向けた市民社会の意見作成に参加、他ユニット担当と共に提言文の作成を行いました。

HLPF に関する外務省・NGO 意見交換会

今年 5/11 に、外務省と市民社会が集い、HLPF における日本の報告等についての討議が行われました。市民社会からは SDGs の各目標についての議論が提示され、JYPS もこの市民社会の一部として加わりました。JYPS からは政策局統括の外池が参加し、外務省の地球規模課題総括課の担当者と以下の内容で意見交換を行いました。

～当日の発言内容～

HLPF のプログラムに関する日本政府の立場、関係する目標すべてと HLPF との関係、去年採択された New Urban Agenda や、今年行われる仙台枠組みの GPDRR や Ocean Conference などの持続可能な開発枠組みがどうアジェンダ 2030 との一貫性を担保するのか及びどのようにして一貫したフォローアップを行うかは、HLPF の Ministerial Declaration でも、EGM でも強調されてきた課題です。

HLPF に関する国連決議 Res 67/290 は、そのフォローアップ&レビュー対象をアジェンダ 2030 に限っておらず、最も政治的意思が集まる HLPF で他の 2030 アジェンダに関係するフレームワークを強調することは、包括的な持続可能な開発の実施において非常に重要です。

特に、日本政府がホストした仙台枠組みに関するものもある、HLPF のプログラムにおいて、どのように仙台枠組みのようなその他のフレームワークが取り扱われるべきだと考えているのかという日本政府の考えを聞きたいと思っています。

今後も仙台枠組みに政治的焦点が当たるようにし、各国に実施を強く促していくためには、最も政治的意思が集中する場所にて議論を喚起することが非常に重要です。

特に HLPF にて一つのテーマに一つのセッションを割り当てることは、去年の一日中サイドイベントを行っているような HLPF に比べ、より実質的に意味のあるフォローアップ議論が可能です。

HLPF におけるプログラムの例として：HLPF にフォローアップのマנדートを与えている枠組み（例えば、Finance for Development、Science Technology Innovation, Habitat III など）に対して 1 セッションを割り当て、今後の施策を行うべきであると私は考えています。

加えて、国際社会において各枠組みのフォローアップ会議の成果文章と SDGs 戦略との統合について複数の政府から時刻に関して報告、その報告に対して MGoS がコメントをすることが良いと考えている。

公明党 SDGs 推進委員会ヒアリング

今年 6/12 に公明党 SDGs 推進委員会が主催し、衆議院議員会館で公明党 SDGs 推進委員会ヒアリングが開催され、JYPS からは政策統括の外池が参加しました。

この会は日本の SDGs 実施に向けて、民間企業、国際機関、アカデミア、NGO/NPO、そしてユースの各ステークホルダーと公明党議連である SDGs 推進委員会との意見交換会が目的とされました。

会は公明党の山口なつお代表からの挨拶のあと、外務省から SDGs 推進本部の取り組み状況、7 月の HLPF の日本の発表内容についての報告があり、その後、各ステークホルダーからの意見発表となりました。

その際、外池からは、SDGs 国内実施の基本理念である「誰も取り残さない（No One is Left Behind）」の理念を掲げる際に、周縁化されたユース、障がい者などの取り残されている人達がいる点、そして円卓会議においてもユースの参画が取り込まれていない制度的問題を指摘しました。これに合わせ、他の参加者からも、SDGs 推進円卓会議にユースがいないことへの懸念が述べられました。

他にも、日本政府の SDGs 推進委員会より沖縄国際映画祭でのよしもと興業とコラボした PR イベントなどの事例が共有されるなど、国民の関心を高める必要性や、SDGs 推進の財源の確保、持続的な開発を推し進める法整備作りなどが議論されました。

カウンターレポートの作成

JYPS は SDGs Japan と協働し、日本の市民社会から見た、政府による SDGs 国内実施取組に対するカウンターレポートを作成し、レポート内のユースパートを担当しました。

カウンターレポートとして意見をまとめることの意義

カウンターレポートとして意見をまとめることの意義として、以下の事が挙げられます。

まず、日本政府の SDGs に関する政策の実施の評価をしたうえで、足りない視点を補うことができる点に意義があります。

加えて、日本政府が力を入れる部分とは別の場所から問題提起を行うことにより、取り残されているステークホルダーに再度焦点をあてることが可能になります。

さらに、日本政府の現状分析に対し、市民社会の集めたデータを使って議論を呼び起こすことができます。

国際レベルでも、それぞれの国の市民社会が連携を行いつつ、各国政府の SDGs 実施内容を評価することによって、その国の政策に対してポジティブな内容の多い VNR などのレポートだけでは分からない、実際の SDGs の取組みの問題点等をも、国際的に共有することができます。

上川陽子議員(現法務大臣)との意見交換会

日本の国連代表部において、SDGs 市民社会ネットワークから数名が上川議員と SDGs について意見交換を行いました。JYPS からは大久保、唐木、小池の 3 名が参加し、自己紹介、活動紹介、SDGs に関する日本政府に対する期待と希望についてを述べました。

具体的に市民社会側からは、NGO が日本政府のパートナーとなれるよう、政府による NGO の金銭的・キャパシティービルディングに関するサポートの要望、政府との対話の場を増やすこと、政策などの意思決定の場で早い段階からユース等を含めたステイクホルダーの参画する機会を増やすこと、子どもへの暴力・ジェンダー・環境などに対する問題提起などが挙げられました。

阿部俊子衆議院議員との会食

HLPF 期間中、現地 NY にて阿部俊子衆議院議員と SDGs Japan の会食があり、11 名が参加しました。JYPS からは上田と大久保の 2 名が参加しました。

会食では、JYPS の活動紹介に加え、阿部俊子議員が以前農林水産副大臣だったこともあり、日本の林業に関する問題など日本国内での環境問題に関して意見交換を行いました。

国連代表部や東京の外務省の方々との対談・会食

今年の HLPF においては、VNR、日本政府のレセプションへの出席を通して日本の外務省の方々に対する JYPS の認知度を高めることができました。

今後は、今回の認知及び協働の結果を引き続き政策の場面につなげていくために、さらなる認知度の向上を目指すだけでなく、これまで以上に JYPS が、日本のユースや市民社会だけでなく日本政府に対しても重要な知見を提供できるプラットフォームであることをアピールしていきます。

HLPF 公式セッションやサイドイベントにおける発言

HLPF における分野ごとのセッションにおいて、JYPS は国連メジャーグループとして 2 度の発言（Intervention）と多数の発言準備を行いました。発言内容は UNMGCY の分野別グループ内での議論を重ね、最終的にそれぞれ 1 つずつの質問・主張へとまとめられました。

以下にセッションの概要及び UNMGCY を代表し、JYPS が発言した宣言文（Statement）の概要を記載します。

SDGs 実施レビュー SDG1(貧困問題)：遠藤 あんな

国連加盟国各国の SDG 1「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」の実施レビューにおいて、1 日 1.90 ドル以下で暮らす絶対的貧困と、各国の定義による相対的貧困にいる人を減らすには各国はどのようなアクションを取るべきか、等の議論がパネリストたちから行われた。

各国のスピーチでも共通していたのは、貧困は収入のみではかるべきではなく、脆弱な人たちの保護とエンパワーメントのために、無償教育や医療保険を充実させること、そして失業率を改善することでした。

JYPS からは遠藤が年齢による差別をなくし、若者の雇用が貧困削減に寄与する重要性を訴えました。

小島発展途上国の行動形式の推進に関する枠組み(SAMOA Pathway)

と貧困の削減に関するレビュー：上田 格

このセッションは、小島発展途上国(Small Island Developing States：SIDS)の貧困をなくすためにはどのような制度を作成すればよいかという内容の議論でした。

JYPS からは上田が、東日本大震災時に福島に居住しておりそれ以降防災分野で活動を行っていることから始め、災害に対して脆弱な SIDS が被災後に食べ物や健康へのアクセスができるような枠組みが必要であるということ、および発展途上の島国にとって貿易関連の知的所有権を見直すこと（特に特許にかかる費用を下げ、ワクチンや薬品に対するアクセスのハードルを下げる）がいかに必要であるかについての発言を行いました。

SDGs 実施レビュー SDG14(海洋問題)：松井 晴香

この SDG14「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」のレビューに関するセッションの内容は p30「本会議プログラム一部詳細」に詳細に記載されています。

JYPS からは、松井がマイクロプラスチックの問題・海洋生物の乱獲によるコミュニティレベルでの食の主権(food sovereignty)と人権の侵害の問題等について発言予定でしたが、時間の関係で残念ながらその機会を得ることはできませんでした。

The urban lens：小池宏隆

代表理事の小池が Habitat III(住環境と都市開発に関する国連会議)プロセスでの経験を活かし、パネリストとして登壇しました。

公式会議での発言(Intervention)の重要性

各政府による VNR に注目が行きがちな HLPF ですが、2 週間の会議期間のうち、1 週目はゴール別・テーマ別のフォローアップが中心となっています。

残念ながらそれらのセッションは、パネルトーク等をあまり超えるものではなく、自国の良い取組を紹介する加盟国、またはそもそも出席しない加盟国が多く見られます。

しかしこれでは、HLPF が Agenda 2030 を含む世界の持続可能な開発を進めるための数多くの枠組み等のフォローアップを行う重要な場であるにも関わらず、非常に意味の薄いものとなってしまっています。

しかし、その1週目の HLPF のなかでも、我々市民社会は常に参画する必要があります。その理由としては以下の通りです。

HLPF の流れに影響を及ぼす

HLPF における分野別セッションは HLPF 1 週目の成果物として、1つの報告書にまとめられます。そしてその後、翌年の HLPF の会議のアジェンダを作成する際にはその前年度の報告書を参考にするため、HLPF において取り上げる問題の種類、及び取り上げられる問題の重要度はその年議論された内容に依ります。従って、テーマ別・ゴール別フォローアップの会議に市民社会が参加し、きちんと発言し、議論することは、各国政府の避けたい分野の話題にも言及を行うことができ、翌年のテーマ別・ゴール別フォローアップの議論の方向性に対しても影響を及ぼし得るのです。

我々の考える影響の及ぼし方として、パネリストに市民社会・MGoS から人を呼ぶ、議論の中心をマイノリティーの問題とするなどが考えられます。その結果、それぞれの議題の時間の増減や、各プログラムの下でのレビューに含めるアジェンダへと影響を及ぼすことが可能です。

議論の中心が別の場所に移る可能性があるからこそ、市民社会が発言する意義が大きくあります。

市民社会の発言の場を守る

日本の VNR が無い年も、HLPF に参加し、MGoS として本会議でインターベンションを続けることは、市民社会・MGoS の参加の席を守るためには不可欠です。

市民社会が参加しない場合は、国連加盟国の政府から市民社会は発言する意思が無いととられ、本当に必要な場面や交渉においても、市民社会参画の場がなくなる可能性があります。

つまり全てのセッションでマイクのボタンを押すことは、国連加盟国の各国の政府へ市民社会の参画スペースの必要性を訴えることができます。日本の SDGs 推進

円卓会議等で市民社会代表の席が設けられたのも、日本の市民社会が常に日本政府や国際社会に対して存在を示してきてからだと考えられます。

セクター内・セクターを超えた連携

1 週目のゴール別・テーマ別レビューに同じ目的を共有する人々が集まることで、その後の連携を推し進めることができます。例えば、毎朝の MGoS の全体ミーティングや個別のメジャーグループでの会議などでは、世界中から人が集まるため、そこで幅広い知識や経験、また国連メジャーグループとしての戦略的アドボカシーの方法の共有が行われます。

他にも、1 週目の議論に参加することで、加盟国からその議論に関して詳しく話を聞きたい、と話しかけてもらえる可能性があるだけでなく、自身の発言に対して加盟国側からの返答をもらえることもあります。このように加盟国が市民社会の発言を取り上げる可能性や、なんらかのサポートに繋がることもあります。

特に加盟国にユースが何を発信したいのか知ってもらうためには、公式に発言することが重要となります。なぜなら、ユース宣言などの意見をウェブサイトに掲載しても見てくれる可能性は高くないからです。

サイドイベントの重要性

サイドイベントを日本の市民社会として、または MGoS として積極的に行うことにはいくつかの重要な点があります。

1. 自分たちが主催側となることによって、自分たちの行いたい議論の流れや主張を伝えることができます。そして参加者に新しい知識や考え方などを提供することによって、そこから新たな議論の流れを作ることにつながります。さらに、本会議に対しても影響を与えられる可能性があります。
2. 政府の重要人物や JICA 職員等の政府関係者を招待することによって、世界の人々の前で実際の発言の言質を取ることができます。
3. サイドイベントで政府の重要人物や議員の方などと実際に会い、協働して、イベントを開催することによって、お互いを知ることが出来ます。そしてその後の日本国内でのアドボカシーにも繋がる可能性があります。

VNR での成果及び評価と今後のアドボカシー

日本による VNR のおおまかな内容

日本政府の VNR では主に下記の事を述べていました。

1. 全ての人がその能力を最大限に発揮し、あらゆる場で活躍できる多様性と包摂性のある社会の実現を目指すということ
2. それに向けて官民パートナーシップ（Public Private Action for Partnership: PPAP）を通して SDGs 実施のための「基盤整備」を整えていること

具体的には「SDGs 推進本部」の設置、「SDGs 推進円卓会議」等における意見を考慮して「SDGs 実施指針」を作成したことなどを強調しました。

JYPS 代表理事の小池が、日本初の VNR に対して、発表者である岸田外務大臣へ、日本の市民社会や MGoS を代表して他の国連加盟国の前で質問をしました。

質問はユースのみならず、すべてのステークホルダーの意見をできるだけ包括的に含められるよう、市民社会のみならず、外務省とも HLPF の事前準備から協議を進め、交渉を行いました。

質問内容

“世界・日本の若者は、少数の富者と圧倒的多数の貧者の間の巨大な不平等といった課題に直面し、苦悩し、搾取と周縁化に苦しんでいます。私たちは、根本原因に取り組む、しっかりと段階を踏んだ、真に変革的な実施計画を必要としています。日本政府が、現在、社会を率いている世代が本来果たすべきであるにもかかわらず、いまだに果たしていない責任を果たす用意があるのかどうか疑問を感じています。岸田外相、このパートナーシップを実現するために、周縁化された人々、特に若者が、意義のある参画と対話ができ、その対話が生かされ、実践につなげられる場を実現し、制度化することを確約してくださいませんか？”

(翻訳・稲場雅紀氏)

岸田外務大臣による回答

“SDGs の達成に向けて、国民、特に若い世代の関与が重要。子どもの貧困、格差といった負の側面に対して適切に対応することが大事。こどもの貧困や暴力への対策、若年者雇用対策など、関連施策を実施したい。国際協力でも子供や若年層に焦点を当てた支援を実施しなければならない。SDGs 実施のためには、多様なステークホルダーを巻き込むことが重要。疎外化された人々などを巻き込んだ国民運動的活動を展開したい。5月、NGO/NPO も参加して、対話の試みを行った。こうした試みをこれからも続けたい。こうしたことを通じて、若者や脆弱な層の方々との連携を強化していく、こうした取り組みをすることが重要。我が国の取り組みにぜひ参加してほしい。”

また、外務大臣は子ども・若年層に焦点を当て、教育、保健、防災、ジェンダー分野等を中心に 2018 年までに 10 億ドル規模の支援を実施する旨を表明しました。

今後のアドボカシー戦略

加盟団体の政策提言のために JYPS が行うべきこと

JYPS 加盟団体の意見を取り残さず、全て集約させて国連及び日本政府へと提言するためには、さらなるプラットフォーム制度の充実が鍵となります。

加盟団体は各活動分野に対する専門的な知識があり、国内の政策への提言を検討しているのであれば、これから JYPS 運営委員会が行うべきことは、以下の 2 点です。

政策提言機会の提供

政策提言に実際に関わったことが少ない加盟団体にとって、具体的にどのような提言の機会があるのか分からず、意見を言えない問題があります。この問題に対して、いままで JYPS が築いてきた省庁・国連・日本、世界の市民社会等とのネットワークを活用し、加盟団体にとってベストな機会を提供することだと考えています。それは、国連での発言、政府との対話、分野別の勉強会や政策提言活動の報告会など、多岐に渡るものであるべきです。

意見形成の場で行われるアドボカシーに関する知識の提供

JYPS の責任として加盟団体の発言機会等を増やすことはありますが、HLPF での政策提言は、加盟団体を HLPF に派遣するだけで達成できるわけではありません。JYPS の役割とは、それぞれの団体の主張を各国の政府間で行われる複雑な外交や交渉の場で、対等に議論を行うためのサポートだと考えています。

そのためには、現場レベル及び、国レベルで活動する加盟団体にも、国際レベルでの対立点や国連での意見形成のシステムを一定程度理解してもらう必要があります。そして加盟団体が具体的な政策提言にすぐ入れるよう、これらの国連のシステムや世界のステークホルダーに関する詳しい知識は、JYPS の運営委員会が積極的に蓄積し、政策提言の場所を整備することが重要です。

加えて、政策提言を行うためには、広い考えを主張することだけではなく、文書の細かい単語や表現にも目を配り、どの部分に対してどんな言葉を言及することが一番効果的なのかを考えることが重要です。

そのために、今国内ではどのようなトピックがどのようなワードを使って話されているのか、及び国連の場ではどのようなワードと紐づけて主張を行えばよいのかといったことを知る必要があります。

JYPS ではアドボカシートレーニングを通して、そのようなアドボカシーの内容や国内外でのトレンドに関しても分野横断的に理解を深める必要があると考えています。その際に、各分野の担当者(担当団体)をトレーニングに招き、各分野のアドボカシーのポイントとなる部分を相互に教えあうことで、JYPS というプラットフォームを通した全体的なアドボカシーの能力を育成することに貢献できると考えています。

同時に、自分たちだけが主張できれば良いという考えではなく、ユース内及びユースを越えたそれぞれのステークホルダーの立場なども考慮して、No one is left behind の精神で協働し、共に世界をより良くするという意識を共有することも大切です。

VNR を含む HLPF プロセスへの市民社会参画の必要性

国連における政府の発言内容は必ずしも正しいとは限らないため、市民社会側がその発言を確認する必要があります。もしも間違った情報がある場合は政府に対して正しい情報を伝える必要があります。

加えて、政府の発言の中で MGoS・市民社会への考慮の足りない部分・問題意識のずれなどに対しては、それを修正するために市民社会としての意見を届ける必要があります。

各国政府も、その国の市民が監視しているなかではあからさまな偽りを述べることを躊躇し、SDGs の実施をする必要がでる可能性があるため、VNR などを通して市民と政府が対面することは大切です。

同時に、HLPF の成果を各国に持ち帰るのも重要です。国連で各国及び各セッション・イベントで話された内容を国内での実際の行動に移させ、その結果を追うのも、市民社会の役割であると考えられます。



JYPS 広報活動報告

広報戦略全体概要

広報戦略としては、

- SDGs をあまり知らない方を対象に SDGs と HLPF についての認知度を向上させること
- JYPS が日本人ユースとして国連会議に参加、その政策プロセスに対して参画していること

の2点を HLPF を通じて発信することを目的に活動しました。

まずは SDGs を広く知ってもらうことと、自分ごと化してもらうことは、国際社会、日本政府、市民社会を通した全体の大きな課題です。また、SDGs という国際目標の中でユースがいかに関与をし、重要な役割を担い得るのか伝えることを意識しただけでなく、次回以降の HLPF に参画したい若者へのアウトリーチをすることを考えました。

そのために、以下3つの柱の活動を実施しました。

1. SNS やホームページを通じた発信
2. 日本レセプションでのブース出展
3. 協働団体との連携

広報全体概要

目的

- ・SDGsをあまり知らない方を対象にSDGsとHLPFについての認知度を向上させること
- ・JYPSが日本人ユースとして国連会議に参加、その政策プロセスに対して参画していること

①SNSやホームページを通じた発信



②日本レセプションでのブース出展



③協働団体との連携



SNS やホームページを通じた発信

SNS やホームページを通じた発信として、ブログ（HP）、Twitter、Facebook、Instagram で発信を行なった。ブログに投稿した記事を各 SNS でシェアするなどの連携も行いました。また、ハッシュタグを活用し、連携団体との繋がりも意識して情報の発信を行いました。

ブログの運用

HLPF 期間前には、HLPF についてなどの基本的な背景となる知識、そして期間中は毎日の行動や HLPF で何が起きているのかを報告・発信しました。というのも、HLPF が非常に重要な会議であるのにも関わらず、日本に住む若者の視点で、かつ日本語で毎日発信している情報源は限られていました。従って、JYPS ではその若者の視点かつ日本語を意識して情報発信を行いました。

また、派遣団全員で執筆し、写真を多く取り入れながら投稿したことで、HLPF や SDGs に関心がある層のみならず、派遣団の友人繋がりやそもそも関心を持っていない層両方にアプローチできたと考えています。

ブログ記事一覧

#	タイトル
1	【今さら聞けない・・・でも知っておきたい！SDGs とは】 HLPF レポート Vol.1
2	【日本の SDGs の取組】 HLPF レポート Vol.2
3	【海外&国連の SDGs の取組み紹介】 HLPF レポート Vol.3
4	【ハイレベル・ポリティカル・フォーラム（HLPF）とは？】 HLPF レポート Vol.4
5	【自発的国別レビュー（Voluntary National Review: VNR）とは？】 HLPF レポート Vol.5
6	【国連メジャーグループってなに？】 HLPF レポート Vol.6
7	【HLPF2017 派遣団紹介】 HLPF レポート vol.7
8	【成果文書ドラフトについて】 HLPF レポート Vol.8

9	【YouthActionDays 1 日目！】 HLPF レポート Vol.9
10	【HLPF 直前だよ！全員集合！】 HLPF レポート Vol.10
11	【HLPF 1 日目！】 HLPF レポート Vol.11
12	【HLPF2 日目！】 HLPF レポート Vol.12
13	JYPS メンバーが大活躍！
14	【HLPF 4 日目 :)】 HLPF レポート Vol.14
15	【HLPF5 日目！】 HLPF レポート Vol.15
16	【HLPF6 日目：番外編】 HLPF レポート Vol.16
17	【麗しの日曜日】 HLPF レポート Vol.17
18	【今夜が山だ...った】 HLPF レポート Vol.18
19	【最終日前日の長い夜！】 HLPF レポート Vol.19
20	【7/19 最終日】 HLPF レポート Vol.20

ウェブサイト：<http://japanyouthplatform.wixsite.com/jyyps>

HLPF

【今さら聞けない・・・でも知っておきたい！SDGsとは】HLPFレポートVol.1

June 21, 2017

SDGs(Sustainable Development Goals)すなわち「持続可能な開発目標」は2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」にて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ(Agenda 2030 for Sustainable Development)」を実現するための17の目標を指します。各目標にはそれぞれターゲットが付されており、その数は169個に上ります。SDGsの前身である「ミレニアム開発目標：MDGs」が合計8個だったに比べると目標の数が増え、達成すべきターゲットがより細かく設定されていると分かります。MDGsは名前が示すとおりミレニアムイヤーである2000年に採択され、達成期限は2015年となっていました。SDGsは同様の期間で2030年までに諸目標の達成を掲げています。また、MDGsは発展途上国が対象とされていたのに対し、SDGsは先進国も含め全ての国が時刻の政策やその運用を見直し改善していくことが求められます。今年7月に国連ニューヨーク本部で開かれるハイレベルポリティカルフォーラムでは、17の目標のうち1:貧困、2:飢餓、3:健康と福祉、5:ジェンダー平等、9:産業と技術革新、14:気候変動が議論の対象となります。もちろん、国や政府が単独で実現を目指すのではなく、営利企業や有識者を含め、広く市民社会の活発な参加が見込まれます。それを定めているのが目標17であり、他の全ての目標達成に鍵となっています。今後もハイレベル・ポリティカル・フォーラムに関連する情報を発信していきますので是非7月に向けて一緒に学んでいきましょう！



1 NO POVERTY

2 ZERO HUNGER

3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING

4 QUALITY EDUCATION

5 GENDER EQUALITY

6 CLEAN WATER AND SANITATION

HLPF

【HLPF6日目：番外編】HLPFレポートVol.16

July 17, 2017



HLPF前半が無事に終了し、ようやく週末を迎えました。初夏のNYは、気持ちの良い風が吹いています。

今日は、NYでの夜の楽しみ方をお伝えしたいと思います。

・国連本部でカジュアルドリンク

国連ビルの二階にある代表団向けのラウンジでは、仕事を終えた国連職員たちが集まってお酒を飲みながら、日々の疲れを癒すことが出来ます。会場内には、各国からプレゼントである巨大な絵や飾りものが飾られており、会場全体は荘厳な雰囲気です。

ここは国連職員だけではなく、その友人や家族も招待できることができ、バーには、ビール、カクテル、ワインにシャンパンが揃っており、な...

[続きを読む](#)

HLPF

【HLPF5日目！】HLPFレポートVol.15

July 15, 2017 | 塩田貴子



7/10から7/19にかけて国連本部で行われるHLPFも、ちょうど折り返し地点にきました！セッションやイベントが盛り沢山の一日を振り返っていきます！)

今日は早朝からのMGCYミーティングに加えて、MGoSミーティングにも参加してきました！

17日～の閣僚級会合に向けて各国からの参加者も増えてきているため、国連の様々なメジャーグループやステークホルダーが集まり、HLPF参加上の基本事項について確認し合います。

その後は、9時から13時にかけて「相互関係性を活かした効果的なSDGsの実施 (Leveraging interlinkages...

[続きを読む](#)

twitter の運用

twitter では、JYPS HLPF 派遣団員が執筆したブログのシェアの他、会議の LIVE 中継、そして会議の様子や発言などの実況を行いました。その際、UNMGCY のアカウントと連動させながら活動しました。

その結果、多くのいいね！やリツイートを得ることができ、国連広報センターや近藤 UNDP 駐日大使らからもリツイートをされました。特に、日本政府のレセプションにゲストとして来ていたピコ太郎氏との写真や会見の中継ではフォロワーの反応が大きかった。

定量的に結果を見てみると、会議期間中（7/7-19）で約 55000 件のインプレッションを得た。



(2017.7.26 時点)

Facebook の運用

Facebook では、JYPS HLPF 派遣団のブログのシェア、LIVE 中継（JYPS 派遣団の発言、日本レセプションなど）の他、HLPF に関連したニュースなどのシェアを行いました。定量的には、JYPS アカウントからの投稿は 1 万人以上にリーチしたことがわかりました。



(2017.7.26 時点)

Instagram の運用

HLPF 会議期間後半から、よりユースらしい発信とユースへのリーチを狙い、Instagram の活用を始めました。

開始して1日でフォロワーが100人増えるなど、今回のHLPFを契機とし、今後のJYPSにおける戦略的なSNSの運用に期待できると考えています。

総括

閲覧数の増加などでSDGsやHLPFのアウトリーチができたのではないかと考えています。ブログと同様、日本の団体または日本語でHLPFを発信している情報が限られるなか、唯一日本のユースの視点で報告したものであると評価できると考えています。

情報発信においては、全体として即時性と「顔の見える会議の発信」を心がけました。

即時性では、ツイッターやインスタグラムストーリーで会議の流れを逐一報告しました。また、ブログも会議中毎日更新できたことで即時的な情報発信ができた与自己評価しています。

また、顔の見える発信では、HLPFやSDGsは国際的で遠いものだと考えられやすいため、派遣団のユースの顔を出し、親近感を持ってもらい、また応援してもらいやすくする工夫をしました。これはFacebookのブログのシェアでも、派遣団の写真

がトップにある場合の反応が特に良かったことから、効果を実感することができました。

ピコ太郎氏などの影響もあり、今回総じて SNS での反応が良く、JYPS アカウントのフォロワー数も上昇しました。しかし、次の会議までいかにその関心を集め続けられるのが今後の課題であると考えています。

引き続き JYPS としてこまめかつ有益な情報発信を行なっていきたいと考えています。

他団体・組織との連携、協働

日本政府

今回 JYPS として外務省と大きく 2 点に関して連携を行いました。

一つ目は SDGs に関する VNR です。今年の HLPF では 43 の国から SDGs に関する VNR が発表される予定でした。日本もその一つの国として 7 月 17 日(月)の 12:30～2:00 の枠で、インドネシア、モナコと共に VNR を行いました。

その際、各国 MGoS・市民社会(NGO や労働組合等を含むグループ)からの質問・コメントを 1 つずつ受け付けていました。日本政府の VNR に対するその質問の枠を今回 JYPS が獲得し、代表理事の小池宏隆が日本の VNR を発表した岸田外相に対し、意見・質問を投げかけました。

二つ目は日本政府主催のレセプションです。このレセプションでは、JYPS を含む 14 の企業や市民社会などの組織が出席、ブース出展を行いました。この中で JYPS は唯一若者のプラットフォーム組織としてブース出展をしました。

出展ブースには JYPS の概要やこれまでの政策プロセスをまとめたフライヤーを持参し、同じブース出展を行った団体・企業だけでなく HLPF に参加している(あるいはレセプションのみ参加している)国内外の人に JYPS の広報を行いました。

UNMGCY

今回 JYPS は、UNMGCY という国際的な子ども・若者グループの一員として世界の若者たちと協働しました。

特に JYPS が大きく貢献した部分としては、人数的優位性を生かした記録作成と対外的な SNS などを通じたコミュニケーションです。UNMGCY の中では HLPF 期間中に全ての本会議で議事録を取っていました。結果的にこの UNMGCY 内での議事録作成の 40%以上を JYPS 派遣団が担っていました。これは UNMGCY 中に存在する他の団体と比べても圧倒的に高い割合です。

また、UNMGCY との協働で JYPS が成果を挙げられたこととして、本会議中の発言があります。本会議中には、VNR 同様 MGoS から質問・意見という形で発言が可能であるが、JYPS は UNMGCY の一員として「Children & Youth」のメジャーグループの席から 2 度も発言を行いました。JYPS から 3 度目の発言も行われる予定でしたが、時間の都合上モデレーター(司会者)に飛ばされてしまったという事案もありました。

発言したセッション及び内容としては以下のようになっています。

最初の発言は 7 月 11 日(火)の「Review of SDGs implementation: SDG 1」という貧困をテーマにしたセッションで行われました。そこでは、SDGs の国政レベルでの実行にあたり、まだ使用されていない天然資源を使用することをローカルレベルの対応能力や地球全体としてなどの幅広い事象を考慮に入れ、制限を行う必要があることを主張しました。

2 度目の発言は、7 月 12 日(水)の「Thematic review: Eradicating poverty and promoting prosperity in a changing world – taking forward the SAMOA Pathway*」という小島嶼開発途上国の貧困、飢餓、健康をテーマにしたセッションで行われました。そこでは、国の領土外の地域に及ぼす影響を認識し、環境破壊や災害に脆弱な地域が貧困・飢餓・健康などの危機にさらされてしまう構造的な問題を訴え、先進国が SDGs やその他の枠組みを活用し、この問題を解決するべきであることなどの主張を行いました。

SDGs 市民社会ネットワーク (SDGs Japan)

日本の市民社会である SDGs Japan との協働としては、日本のユースとして、7 月 14 日(金)の SDGs Japan 及び韓国の市民社会が主催しているサイドイベント

「Progress of SDGs in East Asian Context: from the view of civil society in South Korea and Japan Specifically on SDGs 16 & 17」に出席しただけでなく、7 月 18 日(火)の

「Cooperation between Africa and East Asia for SDGs and Agenda 2063: Lessons learned from TICAD」というサイドイベントにも出席、運営補助を行いました。

日本政府主催のレセプションにおける協働

レセプションのあらまし

今年の HLPF では、日本が VNR に名乗りをあげたこともあり、7 月 17 日の晩に日本政府主催のレセプションが開かれました。

このレセプションの主なプログラム内容は以下の通りです。

1. 岸田外務大臣による挨拶

「誰一人取り残さない」を合言葉に SDGs 達成に向け、あらゆるステークホルダーが国を超えて連携し、共通の課題に挑戦しゆくためのパートナーシップの構築と SDGs の普及の重要性について強調しました。

2. グテーレス事務総長から日本の SDGs 達成に向けた取組に対してのメッセージ紹介（ヴィオッティ国連事務局官房長代読）

3. ピコ太郎氏によるパフォーマンス

「官民パートナーシップ（Public Private Action for Partnership：PPAP）」の拡充・強化をアピールしました。

4. SDGs の実施に積極的に取り組む民間企業や市民社会のブース出展

JYPS を含む合計 14 団体が活動の紹介を行いました。

5. 日本食、日本酒の提供

日本食や岸田外務大臣の故郷である広島産の日本酒が振る舞われました。

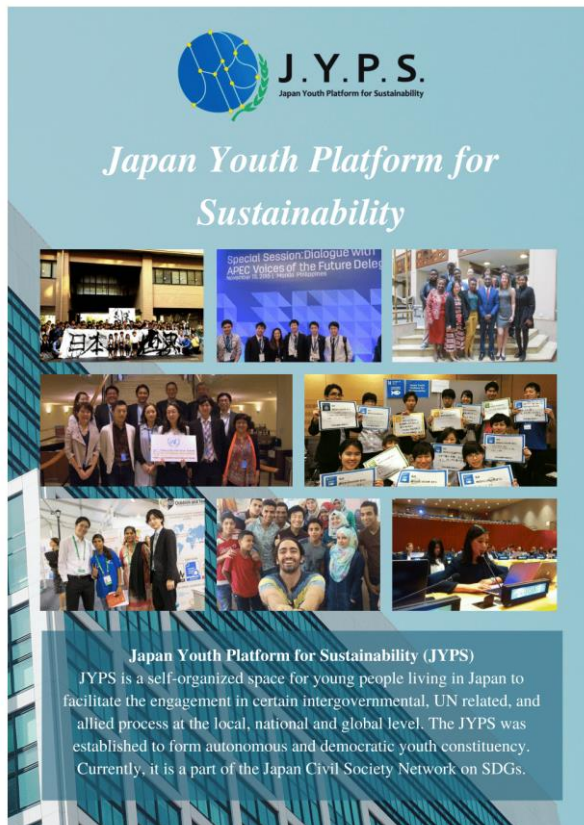
6. 国連広報センター（UNIC）による写真展示

レセプションにおける JYPS の活動紹介

JYPS は、参加者に対し活動内容を記載したフライヤー（A4 サイズ/カラー）の配布を行うと共に、出展しているブースでは JYPS の概要やこれまでの政策プロセス等の具体的な説明を行いました。

チラシは HLPF の準備期間中に作成し、派遣団員でセクション毎に分担して執筆しました。形式としては、表面に JYPS がこれまで参加してきた国際会議等の写真を掲載し、裏面に JYPS がプロセスを追っている各会議（G7、HLPF、TICAD、APEC、

DRR、Habitat、Finance for Development) での成果や国内での活動内容について説明する形でした。



成果

JYPS と同じくブース出展を行った民間企業・市民社会（SDGs ジャパン、JANIC(国際協力 NGO センター)、ワールド・ビジョン・ジャパン、日本労働共同組合連合会、麒麟、武田薬品工業株式会社、住友化学、経団連、損保ジャパン、ジャパン・フードエコロジー、NEC、アクセンチュア) に対して、フライヤーを用いて JYPS の活動を紹介し、JYPS の広報とネットワーキングの強化を行いました。さらに、レセプションに参加した国内外の政府関係者、メディア関係者、市民社会にも JYPS の広報を行い、認知度の向上に貢献しました。